

大会名 Competition	第37回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-110	Year Month Day Time 2024 年 5 月 4 日 17 : 30
場所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA 能代科技	20 1st 38 14 2nd 20 18 3rd 27 23 4th 30 0 T	チームB 開志国際
75 ●		115 ○

主審:Crew chief
水木 順仁 秋田
副審:Umpire
松本 彩織 岩手
佐々木 飛翔 秋田
テーブル・オフィシャル:Table officials
能代高校 男子

No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	／	佐藤 悠斗		0	0	0	0	0	5	×	平良 宗龍	cap	12	2	3	0	1
5	×	畠山 悠仁		2	0	1	0	1	6	×	千保 銀河		7	1	2	0	0
8	×	吉岡 寿吉	cap	2	0	1	0	0	7	／	矢作 悠吏		17	2	5	1	1
9	／	山崎 七星		24	1	7	7	1	8	／	高野 拓泉		2	0	1	0	0
10	／	鈴木 慶人		6	0	2	2	1	9	／	前田 へんり	有聖	11	1	4	0	0
11	／	宮田 蒼羽		12	2	2	2	1	10	／	池田 楓真		5	1	1	0	2
12		近藤 愛翔		-	-	-	-	0	11	×	小泉 俊介		13	1	5	0	1
13	×	安藤 璃琥		0	0	0	0	1	12	／	中塚 遼人		7	1	1	2	1
14	／	名古屋 蒼良		0	0	0	0	0	13	×	高橋 歩路		3	1	0	0	2
15	／	熊澤 隼		16	4	2	0	2	14	×	社 斐	ケルビン シミラー	9	0	4	1	0
16	／	下田 瑛斗		0	0	0	0	1	15	／	サニ	アルフレグン ファルク	8	0	3	2	1
17	／	金 隼輝		6	0	2	2	2	16	／	平良 奏龍		4	0	2	0	1
18	×	松田 来翔		7	1	1	2	1	17	／	ホーキス 然		5	0	2	1	0
19	×	信太 虹輝		0	0	0	0	0	18	／	磯部 大悟		7	0	3	1	0
20		大嶋 遥佳		-	-	-	-	0	4	／	北本 慶志		5	1	1	0	0
コーチ		長谷川 聡						0	コーチ		富樫 英樹						0
Ａコーチ		遠田 貴大						0	Ａコーチ		津野 祐樹						0
合計				75	8	18	15	11	合計				115	11	37	8	10

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P率 イントシュート 2P:2P率 イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking [Team]

1	24	32.00%	山崎 七星
2	16	21.33%	熊澤 隼
3	12	16.00%	宮田 蒼羽

1	17	14.78%	矢作 悠吏
2	13	11.30%	小泉 俊介
3	12	10.43%	平良 宗龍

Score ranking [Game]

1	24	山崎 七星	能代科技	2	17	矢作 悠吏	開志国際	3	16	熊澤 隼	能代科技
---	----	-------	------	---	----	-------	------	---	----	------	------

4連覇に向けもう星を取りこぼせない開志国際に能代科技が挑む一戦。若き能代科技のプレーが王者相手にどこまで通用するのか、注目である。

1Q、開志国際は#14シェミリーがインサイドを支配し0-12のランでスタートする。能代科技はタイムアウトで態勢を整え#8吉岡が初得点を上げる。能代科技は#15熊澤、#11宮田の3Pなどで得点を重ねるが、開志国際も#5平良の連続得点などでリードを保ち、20-38で1Qを終える。タイムアウト明けだけを見ると20-26であることを考えると、能代科技はゲームの入りか悔やまれる。

2Q、開志国際は全メンバーを入れ替えて臨む。序盤は能代科技がペースを主導、#15熊澤が2本の3Pを決めるなど攻守で活躍を見せる。開志国際は#15ファルクが3度目の正直でダンクシュートを成功させるなどインサイドを攻略して加点していく。能代科技は、中盤以降シュートに苦しみ得点が伸びず34-58で前半終了。

3Q、能代科技は#15熊澤が自身4本目の3Pを決めるなど外角を中心に得点するが、開志国際#15ファルクに2本のブロックショットを許すなどインサイドでは苦しむ。開志国際は#7矢作、#9前田が活躍し、点差を30点以上に広げる。能代科技は終盤に#10鈴木がようやくインサイドで得点するが、52-85でこのクォーターを終える。

4Q、能代科技はスピードで試合を沸かせていた#9山崎がドライブや3Pで連続得点をする。対する開志国際も試合を通して目立った活躍を見せていた#11小泉が3Pやアシストで得点を伸ばし点差を広げていく。結局、75-115で開志国際が貫録の勝利。能代科技は随所に光るプレーを見せたものの40点差をつけられてしまった。